

1 本園の教育方針

「明るく健やかな子どもに育てる」「礼儀正しい子どもに育てる」「創造力豊かな子どもに育てる」

2・本年度重点的に取り組む目標・・・表内赤文字

3・評価項目の達成及び取り組み状況 評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改修をようする D：改修を要する

重点的に 取り組む 目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等	
		基 準	取組指標	取組 結果	基 準	成果指標			成果 評価
こ と え ば あ に よ る	園生活の中で心 おきなく先生や 友だちと会話を 楽しむ	4	発表する場を設けて子ども たちの表現する場を増やす	3.7	4	友だちの気持ちを理解し、 共感できるようになる	2.7	3.2	教師が毎日進んで挨拶することで、安心して登園することができ挨拶も返ってくるようになった。しかし一部の子どもの中には挨拶が返ってこない、子どもから挨拶をすることがないのが現状です。その背景にある心の中の気持ちを表すことができない理由、ことばに表せない感情、などを引き出す努力をゆっくりと関わり安心できる関係づくりをすることを、教師一人一人が行っている。 ・保育の中で、発表する機会を多く作ったり、積極的に子どもたちと会話したりすることを心がけた。クラス全体でも話し合う時間を多く設け、子どもたちのやりたいこと、思いを聞きそれを活動や発表会に取り入れている。 ・子ども同士での問題解決の際、教師に頼り自分の思いを伝えてはくるが、子どもだけでは難しく仲介が必要。友だちの気持ちを考えてみようという意識が持てるよう援助していく。
		3	積極的に問いかけ子どもの 思いをことばへ繋げる		3	自分の思いを表現し、伝わる 喜びを感じる			
		2	子どもたちの話を聞き思いを 受け止める		2	表情や身振り手振り、ことばで 自分の思いを伝えようとする			
		1	教師がすすんで挨拶をする		1	先生から挨拶されたら挨拶する			
創 造 力 豊 か な	幼児が意欲的に 遊びを進めるた めの環境構成	4	興味のあるものに対して、みんなで楽 しく取り組めるような時間を設ける	2.7	4	自分たちでアイデアを出しなが ら遊びを楽しむようになる	3	2.8	・好きな遊びを思い思いに遊ぶ姿があるが、遊びが固定している子もいる。個人の気持ちを尊重しつつ、他の遊びにも誘い、いろいろなあそびに触れ合うことも積極的にしていくべきだった。 ・子どもたちと一緒に遊ぶ中で、必要なアイテムは手作りし遊びが深まっていくようにした。廃材を自由に使えるように手の届くところに準備している。子どもたちが興味を持った素材や技法を製作活動に取り入れ、クラスで楽しめるように考え進めていった。いろいろな遊びを取り入れ、ルールのある遊びも少しずつできるようになってきている。
		3	子どもが手に取りやすいところに 廃材や道具、材料などを準備する		3	興味を示し、触れたり試したり するようになる			
		2	教師と一緒に遊ぶことで楽しさ やイメージを広げる		2	いろいろな遊びを知り遊びの 幅を広げる			
		1	子どもたちが興味のある遊びを 見つける		1	自分の好きな遊びを見つけて 遊ぶようになった			

教師の質の向上	子どもの気持ちに寄り添う教師のこぼかけの工夫	1	子どもが伝えてくれた気持ちに共感する	4	1	人との関わり方、ことばの伝え方を知りクラスの雰囲気に繋がる	3.2	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み指標は常に心がけ一人一人の人権を大切に考え、毎日楽しんで幼稚園に来れるように保育を行ってきた。</li> <li>・一对一の時間をたいせつにしながら、たくさん会話を交わし、子どもたちと信頼関係を築けるよう努力した。</li> <li>・たくさんほめたり、しっかりと話をしたりする時間を設け、子どもたちの気持ちに寄り添いながら関わる事ができた。友だちが困っている時に、手を差し伸べる姿が一日の中で何度もみられるようになった。</li> <li>・子どもがいけないことをしたときに、注意や叱る場面も多くある。叱られている子どもより周りの子どもがしっかりと聞いており、二重に注意したり、同じことをしている時は教師の代わりに注意してくれたりする良い面もあるが、悪い面もあると感じる。一对一で伝える、クラス全体に伝えるなど適切な方法で行う配慮が必要。</li> </ul>
		1	子どもをほめるときは具体的にほめる		1	自己肯定感を育むことができる			
		1	肯定的な言葉を使いながら関わろうとする		1	教師との信頼関係を築く			
		1	子どもの体や持ち物に触れるときは一言声かけをする		1	子どもの人権を尊重する			

総合的な評価と今後の課題 総合評価： B

◎ことばによる伝えあいでは、自分の思いを表現することはおおむねできるようになってきてはいるが、まだ上手く伝わらずトラブルになってしまうこともあり、なかなか表現したことが伝わったときのよろこびを感じることができていないと思った。言葉で伝えるときの伝え方を一緒に考え、伝える努力を一緒に頑張っていきたいと思う。また、相手の気持ちを考えることがまだ難しく自己中心的な考え方や伝え方も多いため少しずつ相手の気持ちを考えることの大切さも伝えていきたいと思う

◎創造力豊かな子どもでは、様々なことに興味を示しアイデアもたくさん出してくれるがまだ、アイデアを形にしていくことが難しい。イメージを膨らませ発展させて遊びを楽しむことができるように、用意しておく素材や道具を増やし、また作り方や使い方なども伝えていきたいと思う。

◎教師の質の向上では、咄嗟に出る言葉にも肯定的な言葉をつかえるようにもっと意識する必要がある。ほめるとき子どもがどうして褒められているのかよくわかるようにもっと具体的に前回と比較できることであれば前回のことも振り返りながらほめることができると思う。子どもたちが安心して頼れるように細かいところまで気を付け努力する。

「〇〇してあげる」という言葉をこの頃よく耳にするので、教師もことばの使い方に気を付けていきたい。一人一人すべての子ども達により良い保育を提供するために必要なことを丁寧に考え、「安心して」過ごすことのできる幼稚園を目指し、深い信頼関係を築いていきたい。

評価委員会 実施日 令和7年2月12日

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員